

エレミヤ書、哀歌#5:私たちの主権ある陶器師としての神は、私たちが神の器とならせて、神を内容とさせる

10/5-10/11 **OL Summary: I. 私たちの主権ある陶器師としての神は、ご自身の陶器としての私たちに対して完全な権利を持っています。私たちが神の主権のビジョンを見ることは極めて重要です:** **A.** 主権は、神の無限の権威、力、地位を指しています:神は主権ある方として、あらゆるものの上に、あらゆるものの背後に、あらゆるものの中にいます。 **B.** ローマ9:19~23は、神の主権について言っています:『みこころを拒むことが、だれにできましようか?』。しかし人よ、あなたは何者なので、神に口答えるのですか? 形造られたものが、それを形造った者に向かって、『なぜあなたは、私をこのように造ったのか?』と言えるのでしょうか?』(ローマ9:19b-20)/私たちは、自分が何者であるのかを認識する必要があります。私たちは神の被造物であり、神は私たちの創造主です/「陶器師は土くれに対して、同じかたまりから一つを尊い器に、もう一つを卑しい器に、造る権威を持っていないのですか?」(ローマ9:21)。 **C.** 神の主権は、彼の選びの基礎です。彼の選びは、彼の主権にかかっています。 **II. 私たちの陶器師としての神は主権をもって、私たちが創造し、神の器(神の容器)とならせて、ご自身があらかじめ決めていたことにしたがって、神ご自身を内容とさせました:**

A. 人を創造することにおける神の目的は、人を神の器、土くれの容器とし、人が命であるキリストを内容として、彼で満たされるようにして、神の偉大な団体の器としてのキリストのからだを建造し、ご自身の表現を得させることでした。 **B.** 聖書全体の基本的な教えは、以下のとおりです:神は内容そのものであり、私たちはその内容を受け入れるために造られた容器です。私たちは神を内容とし、神で満たされなければなりません。それは、私たちが尊いことに用いられる器となり、聖別され、主人に役立ち、あらゆる良いわざに間に合う者となることができるためです。 **C.** もし私たちが神を内容とせず、私たちの内容としての神を認識しないなら、無意味に矛盾しています[中文訳:神が私たちが器として造った目的に相反し、その意義を失ってしまっています]。 **D.** パウロの十四の書簡はすべて、以下の言葉に要約することができます-「開いた器」:神がどれほどご自身を私たちの中へと分与することができるかは、私たちがどれほど開くかにかかっています/衰退は自己満足から始まります。進歩は飢え渴きから始まります。 **III. 神は私たちの陶器師として、ご自身の主権において権威を持っており、ご自身が選び召した者たちを、尊い栄光のあわれみの器とします:** **A.** 私たちは神の主権あるあわれみにしたがって、神によって選ばれました。神のあわれみは、神の属性のうちで、最も遠くに到達するものであって、私たちがあわれな地位から、ご自身の恵みと愛にふさわしい状態の中へと救い出します:人の不従順が神のあわれみに機会を得させ、神のあわれみは人を救いにもたらします/私たちは神のあわれみのゆえに、他の人が福音に応答しなかったときに、この福音に応答し、他の人が命としてのキリストについての言葉を受け入れるのを拒絶したときに、この言葉を受け入れ、他の人が主の回復の道から後ずさりしたときに、この道を取りました。 **B.** 『私は自分があわれもうとする者をあわれみ』、…ですから、それは人が決意することに

よるのではなく、走ることによるのではなく、神があわれみを示されることによるのです』(ローマ9:15a,16):もし私たちが神のあわれみを認識するなら、自分の努力に信頼することも、自分の失敗によって失望することもないでしょう。私たちのあわれな状態に対する望みは、神のあわれみの中にあります/「主権あるあわれみ」という表現が意味するのは、神のあわれみが完全に、神の主権の事柄であるということです。あわれみの器であることは、私たちの選択の結果ではありません。その起源は神の主権です/私たちに對する神のあわれみを説明するのに私たちが言うことができる唯一の事は、神が彼の主権の中で私たちを選び、あわれみ深くあったということです/私たちに對する彼のあわれみのゆえに、私たちは日ごと彼を追い求めます/私たちは、自分たちにかかわるあらゆるものが神のあわれみの事柄であるのを見れば見るほど、ますます主の御前で私たちの責任を担うようになります。しかしながら、私たちが進んで責任を担うことでさえ、神のあわれみによります/神はご自身の回復に関して、ご自分があわれもうとする者をあわれみます。 **C.** ローマ9章は、あらゆるものが神のあわれみにかかっているという原則を啓示しています:私たちが神のあわれみを見て、神のあわれみに明確に触れるときが、少なくとも一度はなければなりません。 **D.** 「ですから、私たちがあわれみを受け、また時機を得た助けとなる恵みを見いだすために、大胆に、恵みの御座に進み出ようではありませんか」(ヘブル4:16)。 **E.** 父なる神はご自身の主権において、私たちがあわれみしました。ですから、私たちは、父なる神の主権あるあわれみのゆえに、彼を賛美し、礼拝しなければなりません:「父よ、あなたのあわれみとあなたの恵み、慈愛を、私はすでに味わいました。あなたのこのあわれみは、あなたの臨在と御顔をもたらします。あなたのあわれみのゆえに、私は今あなたにひれ伏して礼拝し、あなたのあわれみを賛美し、世々にわたって歌いほめたたえます」(詩歌23番3節)。 **F.** 私たちが創造されたのは、尊いあわれみの器となって、尊い神としてのキリストを内容とするためです。そうして、私たちは神と人とを尊びます:尊い器は、その霊によって生き、歩くことによって、神を尊ぶ者たちであり、また霊を人に供給することによって人を尊ぶ者たちです。 **G.** 私たちが創造されたのは、栄光のあわれみの器となって、栄光の神としてのキリストを内容とするためです:キリストの神性の栄光が解放されたことは、御父によって、神聖な栄光をもって、キリストの死を通してキリストの復活の中で、キリストの栄光が現されたことでした。最後のアダムとしてのキリストは、ご自身の栄光が現されることの中で、ご自身の神聖な分与のために命を与える霊と成りました/私たちはこの宝を、すなわち、栄光の神としてのキリストを、土の器である私たちの内側に住まわせています。私たちに内住している「この宝」は、「イエス・キリストの御顔」、キリストの臨在、「キリストの御前(原文は御顔)」です/私たちは心を主に向けるとき、霊の中でキリストの臨在としての主なる霊を見つめつつあります。そして私たちは「栄光から栄光へ、主と同じかたちへと徐々に造り変えられていきますが、それはまさに主なる霊からです」(Ⅱコリント3:18)/主の栄光を反映することは、他の人が私たちを通して主を見ることができるようです。

CP1:神は人を、神を入れる器として創造された。

信者として私たちは、開いた器であり続ける必要がある

エレミヤ18:6 イスラエルの家よ、この陶器師が行なうように、私はあなたがたに行なうことができないだろうか？ エホバは告げられる。見よ、粘土が陶器師の手の中にあるように、イスラエルの家よ、あなたがたは私の手の中にある。**使徒 9:15** この人は、私の名を異邦人、王たち、イスラエルの子たちの前で担う私の選別の器である。**エペソ 3:19** あなたがたが満たされて、神の全豊満へと至るように。**OL1:**私たちの主権ある陶器師としての神は、ご自身の陶器としての私たちに対して完全な権利を持っています。私たちが神の主権のビジョンを見ることは極めて重要です。**OL2:**聖書全体の基本的な教えは、以下のとおりです。神は内容そのものであり、私たちはその内容を受け入れるために造られた容器です。私たちが神を内容とし、神で満たされなければなりません。それは、私たちが尊いことに用いられる器となり、聖別され、主人に役立ち、あらゆる良いわざに間に合う者となることのできるためです。**OL3:**神は私たちの陶器師として、ご自身の主権において権威を持っており、ご自身が選び召した者たちを、尊い栄光のあわれみの器とします。

神が聖霊を通して人の内側に切望する心を起こして良いわざを始められる時に、すべての霊的な進歩が始まります。…聖霊は私たちの現状が間違っており、あまりにも霊的な生活が浅いことを感じさせます。聖霊の最初の働きは、私たちに不満足な感覚を与えて、…さらに良くなりたいたいという願いを起こさせることです。…これが霊の進歩の始まりです。別の言い方をすれば、すべての失敗と衰退は自己満足の結果です。…自分に満足しない感覚は、聖霊が私たちの中でご自身の働きを始められたことを示すものであり、それは私たちが前進する時です。…衰退は自己満足から始まります。進歩は飢え渇きから始まります。これは一つの事実であり、私たちのクリスチャン生活の全行程においてそうです。例外なしに、まず聖霊は私たちの内側にさらに切なる願いを起こし、次に神は来られて、私たちを満足させ、私たちを満たされます。

適用:新人及び青少年、大学生編

第一に、あなたは被造物として、創造主である神の主権を認めて、神を神としてください。**ローマ1:20** 神の見えない永遠の力と神性の特徴は、世界が創造されて以来、明らかに見られており、造られた物によって認められているので、彼らには弁解の余地がありません。**21** 彼らは神を知っていながら、神として彼に栄光を得させず、感謝もせず、かえって彼らの思考はむなしくなり、彼らの愚かな心は暗くなりました。**25** 彼らは神の真実を虚偽に変え、そして創造主ではなく被造物を拝み、それに仕えました。創造主こそ永遠にほめたたえられるべきです。

第二に、あなたは神を入れる器として創造されたことを認識してください。**ローマ9:23** しかも、栄光へとあらかじめ用意しておられたあわれみの器に、彼の栄光の豊富を知らせようとされたとすれば、どうなのですか？もし私たちが神を内容とせず、私たちの内容としての神を認識しないなら、神が私たちを器として造った目的に反し、その意義を失ってしまいます。最近、有名な俳優や女優が相次いで自殺しています。彼らは仕

事では成功していましたが、残念なことに、人は神を入れる器であるという認識がなかったので、人生に矛盾と空しさを感じていたのでしょう。

第三に、あなたは主イエスの御名を呼び求めてください。**ローマ9章**で私たちが神の器であることを啓示した後、**10章**で器を主で満たす方法を啓示しています。**10:12** ユダヤ人とギリシャ人の区別はありません。同じ主が、すべての者の主であって、彼を呼び求めるすべての者に、彼は豊かです。

第四に、あなたは神の器として、絶えず神に開いている必要があります。パウロの十四の書簡の要約は、「開いた器」です。神がどれほどご自身を私たちの中へと分与することができるかは、私たちがどれほど開くかにかかっています。衰退は自己満足から始まります。進歩は飢え渇きから始まります。決して自己満身に陥ってはいけません。主は聖霊を無限に供給しますので、あなたは絶えず開いている必要があります。**ヨハネ3:34** 神が遣わされた方は神の言葉を語る。彼はその霊を限りなく与えられるからである。例えば、あなたが中間テストの時、主の御名を呼んで、主と共に勉強し、成績が少し上がりました。あなたは喜んで主を賛美しました。しかし、あなたは少しの祝福で満足してしまい、期末テストの時に主を忘れてしまい、あまり真剣に祈らなくなってしまいました。言い換えると、中間テストの時は主に開いていましたが、期末テストの時は主に閉ざしてしまい、成績が落ち込みました。この失敗の原因は、自己満足です。神はその霊を無限に供給し、あなたを無限に祝福されますので、あなたはどんな事でも、いつでも開いている必要があります。

主はあなたのクリスチャン生活が始まる前に、あなたが胎内に形づくられる前に聖別されました。それはあなたが、神の言葉を語る預言者になるためです。神の言葉を語るために、あなたは必ず開いて聞く人でなければなりません。あなたは自分が若いことを言い訳にして、主の委託を拒んではいけません。**エレミヤ1:5** 「私は、あなたを胎内に形づくる前から、あなたを知っていた。あなたが胎内から出る前に、私はあなたを聖別していた。また、私はあなたを諸国民への預言者と定めていた」。**6** そこで、私は言った、「ああ、主エホバよ！ご覧ください、私はどう語るのか、わかりません。まことに、私は若者ですから」。**7** しかし、エホバは私に言われた、「自分が若者であると言ってはならない。まことに、私があなたを遣わすすべての所へ、あなたは行って、あなたに命じるすべてのことを、あなたは語らなければならないからだ」。**8** 彼らの顔を恐れてはならない。まことに、私はあなたと共にいて、あなたを救い出すからであると、エホバは告げられる」。さらに、人に頼って、人から祝福を求めてはいけません。神に頼り、神の祝福を求め続けるために、全生涯の毎日、神に開き続けることを訓練すべきです。**祈り:**「おお主イエスよ、私は若い時から、創造主である神の主権を認めて、あらゆることで神を神とすることを学びます。私は神を入れる器として創造されました。主の御名を呼び求め、主で満たされることを望みます。主よ、私を開いた器にしてください。自己満身に陥ることなく、常にあなたに開き続け、若くても神の言葉を語る預言者としてください。アーメン！」

**CP2: 自分の努力に信頼せず、神の憐れみを見ることで、
自分の責任を正しく担うことができる**

エペソ2:1 ところであなたがたは、自分の違犯と罪の中に死んでいて。4 しかし、あわれみに富んでおられる神は、私たちを愛してくださった彼の大きな愛のゆえに。

OL1:『私は自分があわれもうとする者をあわれみ』、…ですから、それは人が決意することによるのではなく、走ることによるのではなく、神があわれみを示されることによるのです(ローマ9:15a,16)。**OL2:**もし私たちが神のあわれみを認識するなら、自分の努力に信頼することも、自分の失敗によって失望することもないでしょう。私たちのあわれな状態に対する望みは、神のあわれみの中にあります。**OL3:**ローマ9章は、あらゆるものが神のあわれみにかかっているという原則を啓示しています。私たちが神のあわれみを見て、神のあわれみに明確に触れるときが、少なくとも一度はなければなりません。

しばしば、私たちのあわれむべき状態のゆえに、私たちは恵みを見いだす前に、あわれみを受ける必要があります。私たちは、幾分か放蕩息子が彼の父に来たのと同じような状態で、乞食のように恵みの御座へとやって来ます。放蕩息子のような乞食はあわれみを必要としています。私たちが恵みの御座に来る時、自分をみじめであると感じて、このように言うことで、「父よ、私は何にも値しないものです」。しかし、御父はこのように言うかもしれませんが、「あなたはふさわしくないかもしれないが、私はあわれみ深いのだ。私のあわれみはあなたにまで届き、私の好意を得させる資格をあなたに与える。私のあわれみは、私をあなたへともたらし、最上の衣をあなたに着せる」。神のあわれみは私たちがいつでもあずかることのできるものです。

長年の経験を通して、私のはっきりと、また深く納得したことです。私たちに起こるすべての事は神のあわれみから出ているということです。すべては神のあわれみの事柄です。私たちはこの事を見れば見るほど、ますます主の御前で私たちの責任を担うようになります。しかしながら、私たちが進んで責任を担うことでさえ、神のあわれみによります。なぜ、ある信者は喜んで責任を担おうとするのに、ある信者はそうしないのでしょうか？ その答えは神のあわれみにあります。

神はご自身の回復に関して、ご自分があわれもうとする者をあわれみます。私たちは、他の人たちよりも頭が良く、他の人たちより主を追い求めているから、主の回復の中にいるわけではありません。私たちがここにいるのは、完全に神のあわれみによります。どのようにして主が、あなたを主の回復の中における召会生活へともたらされたのか考えるなら、あなたは彼のあわれみのゆえに彼を礼拝するでしょう。福音、命の務め、召会生活について、神は私たちをあわれんでくださいました。私たちは何と神の主権あるあわれみのゆえに神を賛美し、彼のあわれみのゆえに彼を礼拝しなければならないことでしょう!

適用: ビジネスパーソン・大学院生編

哀 3:22 私たちが滅ぼされないのは、エホバの慈愛である。まことに、彼のあわれみは尽きることがないからだ。

あなたが現在ここで仕事をしたり、研究したりできているのは、神の憐れみのゆえです。あなたは高ぶって、自分が頑張ったので今の私があると言ってはなりません。

I コリント15:10 しかし、神の恵みによって、今の私があるのです。そして私に対する神の恵みは、無駄にはなりません。それどころか、私は彼らのだれよりも多く労苦してきました。しかし、それは私ではなく、私と共にある神の恵みです。あなたは、「自分は頑張ったからこうなった」と言うことは、明らかにパウロの証しとは異なります。パウロは誰よりも多く労苦しましたが、それは私ではなく、神の恵みであると証しました。主があなたに対する憐れみを少しでも減少させたなら、今のあなたはないことを知ってください。例えば、あなたは難しい試験を合格しました、或いは会社で昇進することができました。あなたは頑張ったかもしれませんが、神の憐れみがなければ、あなたの得意な問題が出なかったでしょう、或いはあなたの上司はあなたではなく他の人を昇進させたでしょう。農夫がどんなに労苦しても、天から雨がなければすべての労苦は無駄になります。同様に、あなたがどんなに良くやっても、神からの憐れみと恵みがなければすべての労力は無駄になります。更に、あなたが労苦することができたのも、主の憐れみなのです。

詩歌 234 番 2~3 節は言います、

2. おお何という奥義でしょう、誰も知り尽くせぬもの、神の愛の広さ、長さ、高さ、深さを! 天使たちも知らない救い、全地は伏して、主をほめたとう。全ては憐れみ、今、礼拝します
3. おお何という恵みでしょう、主は父の御座を離れ、御身を捨て、血流し、望みなき人救う。恵みは無代価で無限に、罪にある私にも及んだ! 無代価の恵み、私にさえ及ぶ!

ですからあなたが今ここにいるのは、完全に神の憐れみの故です。神の憐れみに感謝賛美します。

兄弟の証し:「私は台湾での李兄弟の全時間訓練に参加した時、最初、自分の献身が良かったので訓練に参加できたと考えていました。しかし、1ヶ月も経たない内に、中国語ができないので日本に帰りたくなりました。私はチームリーダーでしたが、中国語ができないのでメンバーが質問してきても、何を質問されているのかもわからず、毎日情けない気持ちで一杯でした。私は、『日本では少し役に立つのに、台湾では全く役に立たない』と度々主に文句を言っていました。そして、先ずチームリーダーを辞めさせてくれるように頼もうと考えました。しかし、それを言う前に、先ず主と交わろうと思い、主に不平を言い始めました。不思議なことに不平を言っている間、主が照らして下さり、主の愛と憐れみに触れ、涙があふれて来ました。私が献身して、訓練に参加できたのは全て神の憐れみであることが分かりました。そして、自分の高ぶり、不信仰の罪を告白しました。そうすることで、聖霊で満たされて福音を伝えることができ、多くの人が救われました。神の憐れみのおかげで、2年間の台湾全時間訓練(FTTT)を全うできました。神の憐れみに心から感謝賛美します。アーメン!

祈り:「おお主イエスよ、私の今の研究、仕事、家庭が与えられているのは神の憐れみのゆえです。私は自分が良かったから救われ、召会生活の中に留まることができたわけではありません。すべては神の憐れみのゆえです。神の憐れみを見れば見るほど、私は主の御前へへりだって、自分のビジネスパーソンとしての責任や召会生活と家庭生活での責任を担うことができます。神の憐れみのゆえに主を賛美します。アーメン!」

**CP3: 主との個人的で親密な交わりにより、心を主に向け、
観念の覆いが取り除かれ、栄光の主を見つめる**

ローマ9:23 しかも、栄光へとあらかじめ用意しておられたあわれみの器に、彼の栄光の豊富を知らせようと思われたとすれば、どうなのですか？ IIコリント3:16 しかし、彼らの心が主に向く時はいつも、そのおおいを取り除かれます。18 しかし、私たちはみな、主の栄光をおおひのない顔をもって、鏡のように見つめ、そして反映して、栄光から栄光へ、主と同じかたちへと徐々に造り変えられていきますが、それはまさに主なる霊からです。

OL1:「ですから、私たちがあわれみを受け、また時機を得た助けとなる恵みを見いだすために、大胆に、恵みの御座に進み出ようではありませんか」(ヘブル4:16)。

OL2: 私たちが創造されたのは、尊いあわれみの器となって、尊い神としてのキリストを内容とするためです。そうして、私たちは神と人とを尊びます。尊い器は、その霊によって生き、歩くことによって、神を尊ぶ者たちであり、また霊を人に供給することによって人を尊ぶ者たちです。**OL3:** 私たちはこの宝を、すなわち、栄光の神としてのキリストを、土の器である私たちの内側に住まわせています。私たちに内住している「この宝」は、「イエス・キリストの御顔」、キリストの臨在、「キリストの御前(原文は御顔)」です。**OL4:** 私たちは心を主に向けると、霊の中でキリストの臨在としての主なる霊を見つめつつあります。そして私たちは「栄光から栄光へ、主と同じかたちへと徐々に造り変えられていきます…」(IIコリント3:18)。主の栄光を反映することは、他の人が私たちを通して主を見ることができるようになることです。

私たちの過去を振り返って見るなら、主を礼拝することでしょう。私たちは自分の歩みが自分からのものではなく、彼からであることを認識するでしょう。私たちが生まれる前に、彼は私たちを選び、あらかじめ定め、私たちと関係のあるあらゆることを、私たちの誕生の時と場所を含めて、案配されました。さらに、彼は私たちがいるべきすべての日とすべての場所を指定されました。…私たちに起こるすべての事は、神のあわれみの事柄です。

全宇宙で、イエスの御顔を見つめることほど尊いことはありません。これは個人的な経験と享受のことです。私たちは彼の御前で生きれば生きるほど、ますますイエスの尊さに対する感覚を持つでしょう。これが彼の内住を享受することです。…私たちがみな自分の古いパースンを捨てて、彼の御顔の表示を見つめて彼の臨在を享受することによって、彼を私たちのパースンとすることを学ぼうとするなら、私たちは内住のイエスの尊さに対する甘い感覚を持つでしょう。これは、私たちをとて輝かせるでしょう。それは彼の栄光の反映である輝きです。あなたがこのような経験を一度でも持つなら、他の人はあなたがいかに輝いているかを見ると、私はあなたに保証することができます。あなたは幸いであるだけでなく、輝いているのです。内側からのものが輝き出るのは、これはイエスの反映です。これが内住のキリストに対するパウロの経験でした。

適用: 奉仕者編

IIコリント3:12～18節の啓示に基づいて、新契約の奉仕者としてあなたは、主との親密な交わりを持つべきです。この交わりを三つの区分に分けて説明します。

第一に、心を開いて、主と親密で、プライベートで、個人的で、愛情に満ちた交わりを持って下さい。最初の内は、自分のテーマで主に来て交わっても構いません。例えば、(1)「主よ、なぜこのような上司が私の上にいるのか分かりませんが、私はあなたに開きます。この環境で学ぶべきことをあまり学んでいないと思います。主よ、私を助けてください!」、(2)「配偶者のことで悩んでいます。私の配偶者が早く救われないのはどうしてですか？ 私の配偶者を早く救ってください!」、(3)「私は今になっても、どのようにあなたと親密な交わりをしたらよいのか分かりません。主よ、憐れんでください!」、(4)「主よ、私は主イエス・キリストの交わりへと召されましたが、主との交わりが表面的であるので余り祝福にあずかれないと感じています。主よ、生ぬるい状況から私を救ってください!」など、あなたは自分のありのままに主に来て、主に開いて正直に主と交わってください。決して宗教的に、霊的な振りをして交わってはいけません。単純に、ありのままに主と交わってください。

第二に、主との交わりの中で主に照らされたら、直ぐに自分の罪を告白してください。罪を告白すると、あなたはその霊で満たされます。この時、あなたの心は徐々に主に向かい、自分の観念の覆いは取り除かれて、主の栄光を見つめることができるようになります。例えば、奉仕をする時、あなたは自分の固定観念に従って、パートナーを選んだり、新人を選んだりしてはいけません。心を主に向けて、観念の覆いが取り除かれると、その霊はあなたの奉仕を油塗り、祝福することができます。

第三に、観念の覆いが除かれると、その霊はあなたに神の言葉を語りかけます。そしてあなたは神のみこころを知ります。エレミヤやダニエルはみこころを理解するとすぐに祈りました。この祈りが香壇の祈りであり、神のエコノミーを遂行する祈りです。あなたは主との親密な交わりをもって、香壇の祈りに至らなければなりません。

今年のメモリアルデー特別集会「世界情勢と主の回復に関する時期を得た言葉」の最初のメッセージでエド兄弟は詩歌568(英784)を選びました。それは、コロナの世界情勢の背後の主の動きを理解し、奉仕するための基本的な要求は、主との親密な交わりであるからです。

- 1 主とまじわるため、れいをもちいて、
主の御かおたずね、臨さいもとめる。
(復) かおおいなしに、主を見つめつつ、
かくれたところで、ひたすらいのる。
- 2 主とまじわるため、うちをひらいて、
真じつとまことで、単いつにいのる。
- 4 霊としんじつもて、主とまじわりし、
れいのかんかくに したがいいのる。
- 5 主のかたりかけを せつにもとめる;
主のこころを知って、御むねをいのる。

祈り: 「おお主イエスよ、神を入れる器として主に満たされるために、まず心を開いて主との親密な交わりを持ちたいです。どんな時にも正直に主の御前に出ることを学びます。主との交わりの中で照らされた罪を告白すればすぐに霊で満たされます。心を主に向け、隔てとなる私の固定観念を取り除いていただき、主の栄光を見つめ、奉仕が油塗られますように。その霊の語りかけに聞き、みこころを祈りだすことができますように。アーメン!」